

第6回くらす部会会議録

日 時	2019年2月13日(水) 13:30～
場 所	地域連携交流施設
テーマ	1、本日参加メンバー 2、事務局より 3、福祉サービスに関する勉強会(精神分野) 4、次回開催日の調整
内容	<p>1、参加メンバー：13名</p> <p>2、事務局より</p> <p>○全体研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月7日(木) 10:00～ 播磨町健康いきいきセンター 講師：桜美林大学 谷内先生 参加者 155名 →障害平等研修は、障害当事者しか講師になれない研修で、谷内先生も、弱視の障害当事者 ・ビデオが少しはやい、イギリスのものなので日本と少し文化が違う →より分かりやすい日本版を作る予定がある ・星と入口が丸い箱という表現は非常に分かりやすかった ・機能障害と社会障壁という二つの概念を分かりやすく説明してくれたのはよかった ・新しい試みの文字支援は助かったが、やはり早口のところは追いきれなかったり、ところどころ変換が間違っていたりしたところはあった。 →とはいえかなりの精度があるので、聴覚過敏がある人にもいいかもしれない ・研修の最後で、自分ができることを考えるワークがあったが、歩道が狭いなどの問題があったが、それに対し、家の庭木の剪定をきっちりすると見通しも良くなるという意見が出ていて、なるほどと思った。つい大きなことを考えがちだが、自分の身の回りの小さなことから実際に動いていくことで、住みよい町につながっていくのだなと感じ、目から鱗だった。 ・ビデオは少しはやくて難しかったが、星をどうやって丸い入口しかない箱に入れるかというワークは意図も分かりやすく、方法もひとつずつすぐひらめくことが出来たので嬉しかった。 ・障害についての捉え方が、研修を受ける前と後で変わらない人が割と多かった。 ・普段聞けない生の声が聞けたところはある ・普段から障害者や障害福祉に関わっていない人にどう伝えていくか →クラウドファンディングで資金を集め、映画館で啓発映像を流す試みもある <p>○播磨町福祉会館 キッチンスタジオ 当事者家族が集える場 おにぎりランチ会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生以上 参加者 10名、小学生以下 参加者 17名 ・目的としては、使い勝手の確認と、集える場のモデルケース ・今回は準備をしてもらったので出来たが、自分たちだけでできるかというところとわからない ・食器があちこちにあるので探しにくかった ・IHの使い方がわかりにくかった →マニュアルは置いてあるが、機材の近くにもっと感覚的に分かるような表示があると、誰にとっても使いやすい ・障害者が自主的に集まってするのは少ししんどい

- ・おにぎりだと簡単でいいが、他の料理になると大変かもしれない

○はたらく部会 はたらくみんなのお茶会

- ・3月24日(日) 12:30~14:00 播磨町総合体育館
- ・当事者も支援者も集まりやすい為、ユニバーサルスポーツ交流大会とあわせて開催

○そだつ部会 かけはしCAFÉ

- ・2月19日(火) 9:30~11:30 地域連携交流施設
- ・土日開催のニーズにも応えるため23日(土)も予備日として設定

○推進会議について

- ・2月27日(水) 部会報告
- ・部長に当日の報告を依頼

3、福祉サービスに関する勉強会(精神分野)

- ・みんなねっと(全国精神保健福祉会連合会)について載せた方がよいのではないか
- ・精神障害は急になるので、知識もない状態で親も当惑してしまう。
- ・アルコール問題に関する記述はあるが、薬物依存についてはない
→東加古川病院通院者に限るが、本人向けの勉強会を三カ月ごとに行っている
- ・精神障害者はアルコール依存に陥りやすいか?
→特段そういうことはないが、アルコール依存から鬱に至るケースはよく見かける

4、次回開催日の調整